

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100502		
法人名	社会福祉法人 滝川会		
事業所名	グループホームあじさいでんでんタウン		
所在地	群馬県前橋市川曲町41-1		
自己評価作成日	令和3年11月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和3年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・家族の協力を最大限に活かすケアを心がけ支援していく。
- ・利用者様がこれまで歩んできた人生を大切に受け止め、最後までその人らしくあり続けられるような支援を提供する。
- ・本人と家族双方の思いを受け止め、最良の方法を見極めながら適切なケアを提案していく。
- ・毎月広報誌を発行し、施設で行われている行事等の様子を家族に伝える。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

身体拘束によるケアは何ら根本的な解決には結びつかないことを基本に、利用者の尊厳を大切に、利用者の全体像をつかんでの行動を注視して、その行動に潜む利用者の思いや要求等を推測して原因究明に努め、「身体拘束をしないケア」を実践している。また、利用者の生活のなかで何らかの役割を担っていただくことも馴染みの継続と捉え、掃除や調理などの他、針仕事などの家事も、これまでの生活習慣の中で行ってきたことの馴染みとして、日常生活の中で継続する場面づくりをしている。利用者支援においては、家族とともに支える姿勢であり、毎年家族アンケートを同一項目で実施し、その集計結果を参考に家族の思いの傾向を掴むことで、運営に活かす努力を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「慣れ親しみ思うままに」という事業所理念を全体で共有し、日々のケアの中で実践につなげることができている。また年度初めと自己評価の機会が各自理念の再確認の場となっている。	理念を実現するために基本方針・目標を掲げて、年度初めには前年度の振り返りと評価を行い、今年度に繋げている。理念にある“慣れ親しみ”は、「利用者と職員、利用者と利用者、職員と職員」と広く捉え実践しているが、そうした意味について具体的に職員間で共有する機会が乏しい。	理念の意味するところの共通認識を図り、振り返りに結びつける機会づくりに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は新型コロナウイルスの影響で行えていない。2ヶ月に1度の運営推進会議でつながっている。近隣への買い物、外食、地域の文化祭への参加等、行いたいと考えていることは沢山ある。少しずつ再開していけたら良い。	コロナ禍で交流を自粛しており、現状は再開にむけて検討しているが、地域行事も現在行われていないため、挨拶を交わすにとどまっている。今後は更に、地域資源の把握に努め、地域を身近なものにしていく必要があると考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でご家族や地域の方々に伝達している。会議に出席して下さるご家族からの相談はあるが、その他の関係が持っていない。学童利用者ご家族や地域サロン等で意見交換できる場が持てると良い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回ご家族の出席があり、それぞれの立場で情報交換ができている。ご家族や地域の方にしっかりと事業所の取り組みを報告し、意見を伺い、サービス向上に活かすための話し合いができている。参加されないご家族向けに情報提供を行い、興味を持って頂ける工夫が必要である。	会議では、事業所でどんなことが行われているのか、雰囲気や姿勢を伝えたいと考えており、そうしたなかで看取りについても報告したり、事業所で提供するおやつも味わってもらっている。家族には開催案内を送っており、欠席した場合には議事録を郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では情報提供して頂き、意見交換ができている。障害サービス、日常生活自立支援事業、生活保護等について不明な点は問い合わせしている。	運営推進会議の他、月1回は、申請や加算関係の問い合わせなどで連絡を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束につながるケアを行うことがないよう委員会が中心となり定期的な研修を開催している。研修を繰り返し行っているため、各自の意識は高く、毎日の業務に取り組んでいる。	身体拘束をしても根本的な解決にはいたらないと考え、身体拘束をしないためのケアを実践している。年に2回委員会が企画した研修を行い、全員が報告書を作成している。業務のなかで行動を制限する言葉などに気づけば、日常的に意見交換が行なわれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会が中心となり定期的な研修を開催している。虐待の種類を学ぶことにより、精神的虐待やネグレクトにも意識的に気をつけるようになっていく。虐待が見過ごされることがないように注意しながら、防止に努めたケアが行えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解し活用できるよう、施設内研修を行うことで各自が考え、学ぶ機会となっている。実践の中でキーパーソンの存在について考える機会があり、ご家族との連携や意思決定支援の重要性も感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。不明点や疑問と思われる点には繰り返しその都度説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やご家族が来園の際には意見や要望を伺うことができています。ご家族からの意見は内容を全職員に伝えられるようにしている。利用者の様子に変化がある時は、その都度ご家族に連絡し、対応についての要望等を聴き取るようにしている。	来所の際に、家族から聞き取った利用者に関することは、連絡ノートで全職員に伝えている。家族には、事業報告や稼働率など運営状況を報告し、年1回家族アンケート(雰囲気・対応・環境等)を行い、意見等を聴取している。	家族には、具体的な提示をして運営について意見をもとめるなど、運営に関する意見を聴取する働きかけに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や面談の中で意見交換の機会が持っており、事業所運営に反映させている。	連絡ノート(報告・連絡・相談ノート)は、職員が何でも書けるようにしており、風通しのよい環境になればと考えている。毎月の職員会議では、事前に出されたテーマや行事予定などの他、物品購入・冷暖房費のことなども話し合わせ、会議に本部役員も出席している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間目標の設定や面談の実施等、適宜意見交換を行い、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修で繰り返し学びの機会が持っている。その他外部研修も業務として参加でき、スキルアップにつながられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修にて他事業所との交流機会が持っている。また法人内の他部署からの異動により、支援方法や対応の仕方についての考え方を新しい視点で学ぶ機会となっている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを行い職員が統一した支援を行えるよう情報共有ができています。安心した生活が送れるよう不安なことや要望がないかコミュニケーションを密に図り、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な部分への対応方法を伝え、理解して頂けるよう説明している。ご家族の要望を職員間で共有し、統一した対応が行えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	いくつかの選択肢があることも伝え、「その時」に最適であると思われるサービスであることを伝えるようにしている。不安に思う点が解決されるよう説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ができることは行って頂き、できないことはサポートしてお互いに信頼関係を築けるよう努めている。役割を持って頂くことで、支え合う意識を感じられるような支援を行っている。馴染みの関係性が持っており、共に生活する意識を感じて頂いていると思われる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と一緒に協力していくということを言葉で伝えるようにしている。実際に嗜好品を届けて頂いたり、買い物の依頼等お願いしている。利用者の近況をご家族に報告して共有し、利用者を共に支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活歴を傾聴しながら思い出を共に楽しんだり、懐かしむ等支援に努めている。自宅で過ごしていた時の持ち物や習慣、趣味等を続け、身近に感じられるような環境作りを行っている。	利用者から思い出深い時代のことを聞いたり、針仕事など得意なことをお願いしたり、生活のなかで掃除や家事などの役割を担ってもらうことで、いきいきとした表情になることも馴染みと捉え、継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの過ごし方や利用者同士の関係を把握して、円滑に人間関係が築けるよう職員が間に入り支援している。慣れた場所で馴染みの顔ぶれで過ごせるよう座席の配置に配慮し、利用者同士が声をかけ合う場面もみられている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて行っている。関係性を大切に、相談事があれば思い出して頂きたい旨を伝えるようにしている。地域でお会いした時は声をかけさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人の希望や意向の把握ができるよう、ゆったりとしたコミュニケーションが図れている。利用者の気持ちを第一に考え、本人本位の対応を行っている。	その人の思いを聞くことを第一に考えており、職員都合ではなく、利用者に決定していただけるように支援している。思いを聞く際には、日々の生活の中で寄り添って目線をあわせて話す時間を持ち、利用者の希望に沿ったケア実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取りや、他サービス利用時は他事業所からも話を伺うことで、希望や意向の把握がスムーズに行えるようにしている。また情報提供書類を確認したり、直接ご本人とコミュニケーションを図りながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや報連相ノートを活用し、利用者の日々の様子や変化を職員間で共有して現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行うことで、担当が責任を持って検討する機会が持っている。また意見抽出用紙を活用することで、カンファレンス前に職員間で意見を共有し、ご本人やご家族の思いも可能な限りその都度伺い、介護計画に反映させている。	介護計画は管理者・担当職員・ケアマネジャーの参加するケース会議でカンファレンスが行われ、「意見抽出用紙」の職員意見や、往診の際の医師の意見等を基に、毎月のケアマネジャーによるモニタリングが行われ介護計画の更新に繋げている。	介護計画のサービス内容に基づいた支援に結びつく記録がされるよう、検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や報連相ノートに日々の様子等を記入し、申し送りにて情報を共有して実践や介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに合わせてサービスを考え、提供できるよう努めている。今後はコロナ禍で行えていない他部署交流や地域交流の機会を持ち、個別支援がより行えると良い。柔軟な対応や臨機応変な対応を職員間でも意識統一できるようにしていく。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容やマッサージ等一人ひとりに合った地域資源を利用している。個別支援を行い生活に張りが持てるよう地域資源の把握、活用のための業務について検討していくことが必要である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による定期的な訪問診療の他、急変時にも対応して頂き、適切な医療を受けられるよう支援している。またMCSの活用でタイムリーに相談も行っている。他科受診についても、ご本人やご家族が希望する地域の医療機関での受診が可能である。	協力医の往診を、全利用者が受けている。看護師だけでなく職員も医療介護専用SNS(MCS)で医師に状態を伝えることができる。往診以外の診療は、主に職員が付き添い受診している。結果や薬の変更などは、その都度電話などで行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者との関わりの中で気づいたことは小まめに看護職に報告、相談し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。看護職も介護業務に入っているため、日々の状態変化を把握しやすい。薬や処置についてノートを活用し、対応が統一できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を早めに行い、病院のソーシャルワーカーとの連絡を早めにとるようにしている。連携病院と関係づくりが行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常生活の中で利用者に終末期の話をしたり、早い段階からご家族と方針を共有し、職員間でも統一したケアが行えるよう話し合い、記録や申し送りを細かく行っている。主治医や看護師に職員の不安な点を伝えて対応方法を確認し、安心して支援できるように努めている。	利用者と日常生活を過ごすなかで、看取りは生活のなかにあると考えている。主治医と訪問看護師・事業所の看護師と連携して看取りを行い、最期まで、他の利用者のなかで過ごせるようにホールのソファで過ごしてもらい、看取り後にはそうした支援についても職員間で振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを参考に、職員会議で定期的に研修を行い実践力を身につけているが、研修に参加できない職員への周知、訓練も必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの整備や定期的に防災訓練を行い、災害時に対応できるよう努めている。地域との協力体制としては訓練を行う前に運営推進会議にて地域の方にお知らせし、参加して頂けるよう周知を図っている。	年2回火災訓練、その他年2回地震・洪水などの災害訓練を行っている。2階にあるため、職員はシーツで担架をつくることを学ぶなど避難できる方法を検討しており、訓練には地域住民への参加を呼びかけているが、実現していない。	地域住民の協力を得て、利用者が安全に避難できる方法の検討を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格や過ごし方を理解、把握することで、誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応が行えている。	基本的に排泄や入浴などの際にドアを閉めること の他、利用者にできることはしていただき、その際には、自尊心に配慮した支援に努めている。また、職員間で利用者の排泄等の状況などを確認するときには、職員間だけで伝わるように注意し、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や希望を表せるような声かけを心がけている。利用者の思いを聞き、気持ちを汲み取って自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を把握し、一人ひとりの気持ちを第一に考え、マイペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて衣替えや衣服の新調を行い、その人らしくいられるように、好きな服装を用意している。また身だしなみ整えられるよう見守ったり介助している。定期的な散髪や毎日の髭剃り等、一人ひとりに合った支援ができるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍により準備や食事は一緒に行っていない。片付けは利用者の機能に合わせて役割として行って頂いている。食の好みやメニューの感想を聞き、調理をする職員に伝えて献立に活用している。代替品等も対応が可能である。	栄養士2名が献立を作成し調理している。食事づくりの過程で利用者は関わっていないが、利用者にとって食事は楽しい大事な時間なので、月1回は、七夕・夏祭り等の行事食として、季節のものを提供し、目でも口でも味わってもらえるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて食事、水分量や栄養バランスの把握に努めている。摂取量の不足があれば補えるよう、ご本人の嗜好品を体に影響がない範囲で提供し、栄養が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて毎食後の口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。また定期的に口のメンテナンスとしてかかりつけ歯科による往診を実施し、異常の早期発見ができています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ交換ではなく個々の排泄リズムに合わせたトイレ誘導を行っている。また一人ひとりの能力に応じた介助を行い、トイレでの排泄を支援している。	入居したときには、定時で誘導して1ヶ月ほどでその方の排泄リズムを把握して、その人に合わせたタイミングで誘導している。また、いつもとは違う様子などがあれば誘導し、できるだけトイレでの排泄を促している。自立排泄に向けて、個々の状況に合わせて、スクワットや重りを足につけるなど、下肢筋力強化にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の状態を把握し、個々に応じて水分を多めに提供したり、適度な運動を促す等便秘予防に取り組むことで自然排便を促すようにしている。また食事面でも配慮できるよう調理職員と協力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴が行えている。体調や気分が優れない時は無理をせず、別の時間や日程に変更して入って頂いている。拒否がある方にも声かけの工夫で入浴して頂けるようになっている。	週2回の入浴としているが、風呂場には「いつでも入浴できる」と表示をして、入浴日以外でも本人の意向に沿って臨機応変に入浴援助を行っている。入浴は羞恥心にも配慮して、職員と1対1での入浴で、ゆっくりとできる時間を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後に休息の声かけをしたり、就寝前の習慣や時間を個々に合わせて入眠準備を行っている。個人持ちの布団を使用して頂いたり、部屋の明るさや室温を調整する等、気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬を把握し、適切な量を的確に内服できるよう支援している。症状の変化にも気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせて散歩やカラオケ、裁縫や家事の手伝い等を行って頂いている。日常生活にメリハリを持ちながら楽しみを見出せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの影響により外出行事は行えないが、ドライブや散歩等、他者と接触がない場所へ気分転換に行けるよう努めている。	コロナ禍で外出は制限しており、紅葉を見にドライブや近隣の散歩を行っている。民生委員の方から情報を得て、庭のきれいな近所の家まで見に行くなど、今後も感染状況と気温などもふまえた活動を再開したい考えがある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はコロナ禍で買い物を実施できず、なかなか利用者がお金を所持、使用できていないが、今後は機会を作っていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人持ちの携帯電話へ定期的に連絡をして下さるご家族には職員が仲介し、取り次ぎをしている。また施設へ電話がある際にも会話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は整理整頓され、明るい雰囲気になっている。季節感を取り入れた空間となるよう、利用者と一緒に飾りを制作してフロアに飾る等、居心地良く過ごせるよう配慮している。	利用者の活動を混乱させないように、ゴミ箱や椅子の配置は変えないようにしている。また、好きな場所に座っていただいたり、利用者同士の関係性を大切にしている。季節の飾りつけや、掲示板の写真を貼り替えたりして、安心して過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの場所でゆったり過ごせるようソファやテーブルの配置をしている。馴染みの関係性の中で、お互いの存在を理解しながら自由に過ごせるよう声かけ配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物等を持ち込んで頂き、安心して過ごして頂けるよう努めている。写真やレクリエーションで制作した物等を飾り、居室が明るくなるよう工夫している。	利用者の一日の生活の流れを大切にして、使い慣れた馴染みのものは配置するが、極力余分なものは置かないことで、その人にあった生活空間の確保に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線に注意して安全に自立した生活が送れるよう支援している。表示(トイレや居室入口のネームプレート等)の分かりやすさの工夫がされている。ゴミ箱や椅子等の配置を変えず、いつも同じ場所にあることで自分一人で分かり行動ができるようにしている。		